青少年の体験活動の推進「体験活動推進プロジェクト」
自己肯定感向上プロジェクト

事業内容を工夫したモデル的な事業　～自己肯定感向上プロジェクト～

大館少年自然の家、保呂羽山少年自然の家

【事業のポイント】
○異なる学校・学年の仲間との長期宿泊体験の中で、様々な事柄を目標に向かって粘り強くやり抜くことで、子どもたちの「自己肯定感」を育む。
○少年自然の家の特色や地域資源を生かし、児童の実態に合わせた効果的なプログラムを実施する。
○「生きる力測定ツール」をもとに、独自の分析・調査方法を取り入れ、子どもたちの変容とキャンプ実施による教育効果を確認する。

１．企画

（１）事業実施の背景

体験活動は、子どもたちの健全育成及び人格形成のために必要不可欠なものであるが、子どもたちを取り巻く環境の急激な変化により、これまで身近にあった遊びや体験の場、本物にふれるなどの体験活動の機会は減少している。

また、我が国の子どもたちの自己肯定感の低さは、国際的な調査により明らかであり、その改善が我が国にとって重要な課題である。子どもたちが自信をもって成長し、よりよい社会の担い手となるためには、自己肯定感をバランスよく育むことが必要である。

（２）ねらい

県立少年自然の家において、子どもたちが普段と違う仲間と長期宿泊型の体験活動を行い、目標に向かって粘り強くやり抜く力の育成を目指すことで達成感や成功体験等を得るとともに、様々な困難や失敗を乗り越える体験を重ねる中で、自己肯定感を育むための有効な体験活動について検証を行う。

２．実施概要

（１）実施主体（運営体制）

①　自己肯定感向上プロジェクト推進会議

事業実施前に子どもたちを取り巻く現代的課題や様々なニーズについて協議し、保護者や子どもたちの体験活動ニーズの調査・分析を行った。また、事業実施後にはアケートを分析し自己肯定感向上に役立つ効果的なプログラムの検証、事例研究、普及啓発を行った。

委員長：秋田大学教育文化学部准教授　小池孝範　氏
委　員：県内３少年自然の家所長（大館、保呂羽山、岩城）
あきた白神体験センター所長、日本ボーイスカウト秋田県連盟理事長
ガールスカウト秋田県連盟連盟長、秋田県ＰＴＡ連合会会長
秋田県国公立幼稚園・こども園ＰＴＡ連絡協議会会長、
株式会社秋田魁新報社報道担当者

②　プログラム企画委員会

各施設が持つ特色ある自然環境や活動メニューを生かした体験活動プログラムの企画・立案、関係団体との連絡調整、活動プログラムへの支援、プログラムやアンケート結果の分析と検証を行った。

○「アドベンチャー・スピリット」プログラム企画委員会
委　員：横手星の会長、ほろっとキッズ会長・会員、秋田県カヌー協会長
保呂羽山少年自然の家利用団体代表、保呂羽山少年自然の家ボランティア団体代表

○「宿泊通学学級」プログラム企画委員会
委　員：大館少年自然の家後援会長、大館市子ども会育成連合会長、
大館市スポーツ少年団事務局、大館少年自然の家ボランティア団体代表
大館少年自然の家利用団体代表

（２）実績スケジュール

月　　日	内　　容
7月7日	第１回　「アドベンチャー・スピリット」プログラム企画委員会 参加者：委員３名、事務局７名 内　容：体験プログラムの企画・立案
7月11日	第１回　自己肯定感向上プロジェクト推進会議 参加者：委員１０名、事務局５名 内　容：事業概要の共有、具体的方策及びその検証、評価方法の協議
7月30日～8月4日	アドベンチャー・スピリット
9月3日	第１回　「宿泊通学学級」プログラム企画委員会 参加者：委員５名、事務局７名 内　容：体験プログラムの企画・立案
9月 9日～14日	宿泊通学学級①
9月23日～28日	宿泊通学学級②
10月14日	第２回　「アドベンチャー・スピリット」プログラム企画委員会 参加者：委員４名、事務局６名 内　容：アンケート結果の分析、実施プログラムの検証
11月19日	第２回　「宿泊通学学級」プログラム企画委員会 参加者：委員３名、事務局７名 内　容：アンケート結果の分析、実施プログラムの検証
1月16日	第２回　自己肯定感向上プロジェクト推進会議 参加者：委員９名、事務局３名 内　容：事業報告、成果と課題の共有、来年度事業に関する協議

（３）具体的な取組の概要

（１）アドベンチャー・スピリット

①趣　　旨：雄大な秋田の自然を体感しながら、目標に向かって粘り強くやり抜く力を育成する長期キャンプ。自然への挑戦を通して仲間と互いに助け合ったり、自分の力でやり抜いたりしながら、自己肯定感を育む。

②実施施設：保呂羽山少年自然の家

③期　　間：７／３０（月）～８／４（土）※５泊６日

④参 加 者：８名　※県南の小学５年生～中学３年生を対象に募集

⑤実施プログラム

１日目：出会いの集い、交流ゲーム、ナイトハイク、ソロテント泊
２日目：虎毛山登山、夕日観賞、簡易炊飯、山小屋泊
３日目：日の出観賞、下山、大湯滝や川原毛地獄を巡る、ソロテント泊
４日目：桁倉沼でのカヌー体験、簡易炊飯、星空観察
５日目：秘密基地作り、流しそうめん、キャンプファイヤー、バーベキュー
６日目：振り返り、別れの集い

虎毛山登山

桁倉山でのカヌー体験

秘密基地づくり

（２）宿泊通学学級

①趣　　旨：異なる学校・学年の仲間とともに食事や洗濯等、生活に関する様々な事柄を自分でやり抜く経験を通して、自立心を培い、達成感や成功体験を得ることで、自己肯定感を育む。

②実施施設：大館少年自然の家

③期　　間：１回目：９／　９（日）～１４（金）　※５泊６日
　　２回目：９／２３（日）～２８（金）　※５泊６日

④参 加 者：１回目：１０名　※大館市中心部の小学４～６年生を対象に募集
　　２回目：１５名　※大館市周辺部の小学４～６年生を対象に募集

⑤実施プログラム

・自然の家に宿泊し各小学校へ登校
・食事づくり体験（献立、食材の買い出し、調理）
・洗濯体験（洗う、干す、アイロンがけ、たたむ）
・プロジェクトアドベンチャー（仲間づくり）

食事づくり体験

洗濯体験

各学校への登校

（４）新たな青少年体験活動の推進方策の検討と試行

不登校は現代的な教育問題の一つであり、その原因は多岐にわたっている。不登校児童生徒への対応については、関係者が様々な努力をしているが、不登校児童生徒数は過去最多を更新するなど、憂慮される事態となっている。

秋田県においてもその例外ではない。１，０００人当たりの不登校児童生徒数は１０．８人（平成２９年度文部科学省問題行動等調査）と全国と比較しても少ない傾向にあるが、県教育庁義務教育課による平成３０年度不登校児童生徒の実態調査によると、平成３１年２月現在、県内の不登校児童生徒は９３４人であり、平成２９年度より約２００名も増加している状況にある。

このような状況に鑑み、県内の青少年教育施設が有する豊かな自然環境や機能を生かした体験プログラム等を活用し、適応指導教室に通っている児童生徒を対象とした宿泊体験活動を実施したいと考えている。

自然体験活動や宿泊体験等の多様な体験活動は、青少年の自立心、連帯感・仲間意識等を育む効果が高いことが実証されている。不登校児童生徒が非日常的または課題解決的な体験活動に直接関わることは自己肯定感の向上に結び付くとともに、体験活動が子どもたちの社会性や協調性を育むことで、不登校の解消や学校復帰に向けてのきっかけとなると考え、本事業を実施する。

３．成果と課題

（１）事業成果

１　アンケート結果による効果の検証

「生きる力の測定・分析ツール」（国立青少年教育振興機構）に実施後の参加者の声を加え、事業の効果を測った。

（１）分析ツールの調査項目のうち、自己肯定感と最も関わりのある項目「自分のことが大好きである」の回答結果は次のとおりであり、子どもたちの自己肯定感の向上に有効なプログラムであったことが分かる。

【質問項目　「自分のことが大好きである」の児童・生徒の回答の平均値】

	事前	事後	追跡	事前→事後	事前→追跡
アドベンチャー・スピリット	４．０	４．４	５．３	＋０．４	＋１．３
宿泊通学学級	４．９	５．１	５．２	＋０．２	＋０．３

※「生きる力の測定・分析ツール」（国立青少年教育振興機構）

（２）事前から事後にかけて「自分のことが大好きである」の項目において向上が見られた児童・生徒を抽出し、その変容の理由を他のアンケート項目や参加者の感想と照らし合わせながら、考察した。

◇自己肯定感の向上と結び付いていると考えられる事項◇

・抵抗感のあるプログラムによる達成感
・自然の素晴らしさにふれる経験や感動的な体験
・規則正しい生活経験
・異学年集団での活動を通して培った思いやりや責任感
・プログラム実施を通して築かれた良好な人間関係

２　成　果

（１）有効なプログラムであることの実証

アンケート質問項目「自分のことが大好きである」の回答の平均値が、事前から追跡にかけて、アドベンチャー・スピリットで１．３ポイント向上、宿泊通学学級で０．３ポイント向上しており、２つのプログラムとも自己肯定感を向上させるために有効なプログラムであったと言える。

（２）自己肯定感の向上と結び付く事項の検証

アンケート結果の分析により、自己肯定感の向上と結び付いていると考えられる事項を明らかにすることができた。

（３）新たなプログラムの開発

少年自然の家の特色や、地域資源を生かした自己肯定感の向上に結び付く新たなプログラムの開発は、今後の事業に生かすことができることが分かった。

（２）事業運営上の課題

〇プロジェクト推進会議の開催時期
　１回目の開催時期が遅く（７月）、プログラムを実施するまでに十分に検討・準備する時間がなかった。
〇参加対象と募集方法
　２つのプログラムとも公募による参加者募集であったため、参加者の自己肯定感が比較的高く、その変容を見ることがあまりできなかった。参加対象と募集方法について、検討が必要であった。
〇効果的な調査方法
　「生きる力の測定・分析ツール」を基に秋田県独自の項目を付け加えたアンケートを作成し、事業の効果を検証したが、参加者の変容を十分に見るまでには至らなかった。数値では測りづらい参加者の変容について、記述式の調査を増やすなどし、より効果的な調査方法を検討する必要があった。

（３）事業成果の普及啓発の課題

本事業の成果を、今回実施した大館市（大館少年自然の家）や横手市（保呂羽山少年自然の家）以外の地域にどのように周知するかが課題である。事業の成果を冊子やパンフレット等の報告物にまとめ、関係教育機関や県内市町村教育委員会等を通して、本事業の成果を県民に広く周知していきたい。

４．団体プロフィール

大館少年自然の家 TEL 0186-43-3174

保呂羽山少年自然の家 TEL 0182-26-6011